２０１２年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告用紙

ライフスキル教育推進実行委員会

『セルフエスティームの育成と飲酒防止』

１．はじめに

誠之中学校区は，商業施設や娯楽施設等が多くみられる地域にあり，危険行動への誘惑も少なくない。不登校等の非社会的な問題行動や，喫煙飲酒をはじめとする反社会的な問題行動，学級の荒れ，学力不振等の様々な課題を抱えている。

課題解決に向け，平成 21 年度より誠之中学校を中心に小中 4 校が連携して，セルフエスティーム（健全な自尊心）を育成するためのライフスキル教育に取り組んできた。喫煙や飲酒については，それぞれの学校で児童生徒の発達段階に応じて様々な取組を行ってきたが，「未成年者飲酒予防基金」事業を通して，飲酒予防について， 4 校が連携して取り組んできた内容について報告する。

２．研究目的

小学校 3 校，中学校 1 校が連携して計画的，継続的にライフスキル教育に取り組むことで，子どもたち一人一人のセルフエスティームを育成する。望ましい行動選択ができ，危険行動を回避できる実践力を身につけさせる。9 年間の学校生活において，目標をもち，意欲的に取り組む児童生徒の育成をめざす。

３．取組の概要

（１）実態調査

①「青少年の生きる力と健康行動調査」より

平成 21 年度より，福山市教育委員会が神戸大学に依頼して行う調査を，中学校区 4 校で実施している。小学校 5 年生と中学校 1 年生を対象とし，セルフエスティームをはじめとする心の健康度や危険行動等について調査を行った。

②児童生徒・保護者に対する意識調査（児童生徒 7 月・12 月，保護者 12 月）

誠之中学校区 4 校の小学校５・６年生児童と中学校全学年生徒，全校全保護者を対象に調査を行った。

この調査において，34.0%の児童生徒が飲酒経験があると回答している。そのうちの 41.0%の児童生徒は，父母を含む大人からすすめられている。また，児童生徒の飲酒の実態と保護者の認識には，大きな差があることが明らかとなった。

（２）児童生徒への指導

①保健学習

②薬物乱用防止教室

③保健指導（標語・ポスターづくり等）
④児童会・生徒会活動
⑤総合的な学習の時間・ライフスキル学習
⑥小・中学校間での学び合い

（３）保護者・地域への啓発
①学級懇談会
②学校保健委員会
③教育懇談会
④地域行事への参加

（４）職員研修
①校内での研修
②4 校合同研修
③校外での研修会等への参加
④先進校視察

４．成果と課題

○アルコールの健康への影響の知識の有無について，2011 年度においても 2012 年度においても，7 月調査より 12 月調査の方が「害がある」と回答する児童生徒の割合が増えており，学習を通しての科学的知識理解が進んだ。また，繰り返し学習することが必要であることを確認できた。

○教職員が様々な研修を受ける機会を得て，飲酒予防やライフスキル教育に関係する理論や授業実践を学ぶことができた。それによって，各校での指導法を工夫することができた。

○保護者の意見として，「飲酒よりもタバコ」「学校では教えなくてよい」という意見もあるが，ライフスキル教育の内容に関連するものや親へも指導をといった意見が聞かれ，学校での取組の広がりを実感できた。

○誠之中学校区 4 校が，2011 年度の取組を経て，2012 年度も継続して計画的に取り組む体制ができた。

●飲酒の誘いに対して断ることができる自信は，指導直後では向上がみられるが，2011 年度と 2012 年度，また 7 月と 12 月の調査結果の比較において大きな変化がみられない。学習の繰返しと，実践につなげるための指導法の工夫が必要である。

●最近 1 か月の飲酒経験率は，2011 年度調査より 2012 年度調査の方がわずかに減少しているが，7 月調査より 12 月調査の方が増加している。飲酒経験については児童生徒の実態と保護者の認識に差があり，児童生徒への指導とともに，家庭や地域と連携した取組の工夫が必要である。

５．おわりに

学力向上や生徒指導上の課題の克服など，学校に求められる課題は多くある。「未成年者飲酒予防基金」事業を通して，４校が連携を深め，意識統一して飲酒予防の取組の推進を行ってきた。数値に表れる変化はわずかなものであるが，教職員や保護者の予防教育の必要性への理解は進んでいる。

今後も継続して，飲酒を含めた危険行動の回避や正しい行動選択のために必要なスキルを身につけさせるために，ライフスキル教育を基盤としたセルフエスティームの育成をめざしていきたい。